

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
										WHO HP Disease Outbreak News 1/14, 2004	ベトナムで発生した高病原性鳥インフルエンザH5N1株について、遺伝子解析を実施した結果、ヒトの遺伝子を獲得していなかったことが確認された。ベトナムでは、アヒルとブタに鳥インフルエンザH5N1が感染したとの報告があった。
								有り	レンサ球菌性敗血症	International Journal of Hygiene and Environmental Health 2002; 205: 385-92	ブタを輸送した36歳のトラック運転手にストレプトコッカス・スイスII型による敗血症性ショックが起こった。ブタ関係業者の132名の労働者に咽頭検査等を実施したところ、ストレプトコッカス・スイスの定着率は5.3%であった。
										Lijecknicki Vjesnik 2003; 125: 134-7	クロアチアで自宅でブタを処理したことにより、感染したと思われるストレプトコッカス・スイスI型患者が2例発生した。
								有り	E型肝炎	Enfermedades Emergentes 2003; 5/2: 105-12	従来、E型肝炎は途上国に存在する食品を媒介する感染症と考えられていたが、先進国でもブタと相関する人畜共通感染症として、発想を転換すべきである。
										Journal of General Virology 2003; vol.84: 2351-7	北海道で市販されているブタの肝臓の1.9%からHEV遺伝子の一部を検出。この遺伝子が、ブタ肝臓を摂取後HEVに感染した患者のウイルスとほぼ同等の塩基配列を呈したことから、HEVが十分加熱されていないブタ肝臓の摂取によりヒトに感染する可能性が示唆された。
								有り	ロタウイルス胃腸炎	Indian Journal of Animal Sciences 2003; 73(6); 576-8	インド・アッサム州におけるブタのブタ腸管ウイルス血清調査を実施した結果、ロタウイルス陽性51.1%、伝染性胃腸炎ウイルス陽性39.4%、ブタ流行性下痢性ウイルス陽性21.2%、3種類とも陽性は13.6%であった。
2004/03/15	578	東菱薬品工業	ヘモコアグラゼ注射液	ヘモコアグラゼ	蛇毒		有効成分	無し			
2004/03/15	579	マルコ製薬	コンドロイチン硫酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシ気管	アメリカ	有効成分	無し			
2004/03/16	580	清水製薬	バルナバリンナトリウム注射液	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無し			
2004/03/12	581	アボットジャパン	レビバリンナトリウム	レビバリンナトリウム	ブタ小腸粘膜ヘパリン	中国	有効成分	有り	クロイツフェルト・ヤコブ病	Revue Scientifique et Technique Office International des Epizooties 2003; 22,1: 283-96	英国において、ブタや家禽がBSEの病原体に曝露されたことは否定できない。実験的にはブタや家禽にはBSEの経口感染はなく、BSEに感染したブタや家禽の存在はないが、その可能性についての懸念は完全に否定できない。
								有り	ウイルス感染 (ニパウイルス)	Antiviral Research 2003; 57: 113-9	マレーシアにおけるウイルス性脳炎の原因ウイルスであるニパウイルスは、ブタ間、ブタからヒトや他の動物に感染する致死率の高いウイルスであり、バイオテロとして利用される可能性がある。
								有り	インフルエンザ	Canada Communicable Disease Report 2003; 8./15 volume 29 ACS-4	2003年2月、香港で鳥インフルエンザA型(H5N1)が、オランダで鳥インフルエンザA型(H7N7)が、ヒトに感染した。WHOはガイドラインの作成及び調査強化勧告を実施した。
										WHO HP Disease Outbreak News 1/14, 2004	ベトナムで発生した高病原性鳥インフルエンザH5N1株について、遺伝子解析を実施した結果、ヒトの遺伝子を獲得していなかったことが確認された。ベトナムでは、アヒルとブタに鳥インフルエンザH5N1が感染したとの報告があった。
								有り	レンサ球菌性敗血症	International Journal of Hygiene and Environmental Health 2002; 205: 385-92	ブタを輸送した36歳のトラック運転手にストレプトコッカス・スイスII型による敗血症性ショックが起こった。ブタ関係業者の132名の労働者に咽頭検査等を実施したところ、ストレプトコッカス・スイスの定着率は5.3%であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
										Ljicevnicki Vjesnik 2003; 125: 134-7	クロアチアで自宅でブタを処理したことにより、感染したと思われるストレプトコッカス・スイス1型患者が2例発生した。
								有り	E型肝炎	Enfermedades Emergentes 2003; 5/2: 105-12	従来、E型肝炎は途上国に存在する食品を媒介する感染症と考えられていたが、先進国でもブタと関連する人畜共通感染症として、発想を転換すべきである。
										Journal of General Virology 2003; vol.84: 2351-7	北海道で市販されているブタの肝臓の1.9%からHEV遺伝子の一部を検出。この遺伝子が、ブタ肝臓を摂取後HEVに感染した患者のウイルスとほぼ同等の塩基配列を呈したことから、HEVが十分加熱されていないブタ肝臓の摂取によりヒトに感染する可能性が示唆された。
								有り	ロタウイルス胃腸炎	Indian Journal of Animal Sciences 2003; 73(6): 576-8	インド・アッサム州におけるブタのブタ腸管ウイルス血清調査を実施した結果、ロタウイルス陽性51.1%、伝染性胃腸炎ウイルス陽性39.4%、ブタ流行性下痢性ウイルス陽性21.2%、3種類とも陽性は13.6%であった。
2004/03/17	582	フジモト・ダイアグノスティクス	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	日本白色家兎皮膚抽出液	中国	有効成分	無し			
2004/03/19	583	日本シエーリンブ	インターフェロンベータ1b	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	有り	伝染性紅斑	British Journal of Haematology 2003; 121(6): 955-6	免疫グロブリン製剤投与によるパルボウイルス感染を主張する最初の報告に対するレビュー。免疫グロブリン投与自体が伝染性紅斑の推奨治療法であることから、ウイルスのDNA配列検査等、より明確な因果関係評価による再検討が必要である。
								有り	ウエストナイルウイルス感染	Transfusion 2003; 43(8): 1018-22	重症の分娩後出血により輸血されたことでWNVの感染が疑われた症例をもとに、保存されていた輸血血液成分等を調査した結果、輸血血液成分にWNVが含まれていた証拠が得られた。
										CDC MMWR, 8/15, 2003/52(32):769-72	2003年から、米国で輸血・臓器提供によるウエストナイルウイルス感染防止のため、供血血液に抗体検査に加えてNATスクリーニング検査が導入された。その結果、同年8月5日までに約100万人がスクリーニングされ、329人(約0.03%)がWNV-RNA陽性を示し、再度のNATでも163人(約0.015%)がWNV-RNA陽性だった。
										ProMED 10/10, 2003 (Canoe, cnews, Associated Press report 10/4, 2003)	米国コロラド州で、輸血前には神経症状がなかった24名が、輸血でWNV感染によりポリオ様麻痺を呈した。
								有り	マラリア	CDC MMWR, 11/7, 2003/52(44): 1075-6	2003年3月、米国テキサス州ヒューストンで赤血球輸血を介したマラリア感染を疑う69歳男性の症例報告。2名のドナーの血液からはマラリアの抗体、DNAは確認されなかった。
								有り	アメリカトリパノソーマ症(シャーガス病)	ProMED 11/23, 2003 (New York Times 11/22, 2003)	米国における輸血後のシャーガス病感染の可能性についての記事。米国ではシャーガス病は稀な疾患で、輸血または臓器移植によるシャーガス病感染者は過去に米国及びカナダで9例のみであるが、専門家は輸血患者数百名で不顕性感染している可能性があるとして指摘している。
								有り	HIV感染	CDC MMWR, 11/28, 2003/52(47): 1145-8	米国内29州における1999-2002年のHIV/AIDS調査結果からHIV診断の傾向分析。HIV診断例は102,590例で、男性が約7割であった。また、特に男性、同性愛者、非ラテンアメリカ系白人、ラテンアメリカ系で増加していることが判明した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
								有り	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 12/18, 2003; 13(51)	英国で、輸血により感染したと考えられるvCJDの初の症例が確認されたが、供血者と受血者の因果関係は証明されていない。
2004/03/22	584	エーザイ	セクレチン	セクレチン	ブタ十二指腸		有効成分	有り	ウイルス性脳炎 (Chandipura)	ProMED 7/30, 2003 (India Press 7/29, 2003)	インドで小児250名の原因不明の死亡について、ラブドウイルスの1種である Chandipuraと特定した。
								有り	肺炎	ProMED 8/29, 2003 (The Sidney Morning Herald, 8/28 2003 & The New Zealand Herald, 8/28 2003)	ニュージーランドで原因不明の肺出血で3名が突然死。
								有り	レプトスピラ症	ProMED 9/14, 2003 (Hindustani Times 9/14, 2003)	インドGujarat州南部で、少なくとも27名が細菌類により媒介されるレプトスピラ症に感染し、この1週間に死亡した。また当地から60km離れたBorisana村で原因不明の熱性疾患のため3名死亡した。なお、同村では150名が同疾患に罹患している。
								有り	発熱(不明)	ProMED 9/18, 2003 (Channel News Asia 9/18, 2003 & The Times of India 9/18, 2003) ProMED 9/20, 2003 (NDTV.com 9/20, 2003 & GIDEON 9/19, 2003)	インド北部で原因不明の致死的な感染症が流行し、10名が死亡、30名が入院中である。 インドで過去3年間モンスーンの季節に原因不明の感染症で総数60名以上が死亡、専門家が調査に取り組んでいる。地元医師は、紅斑熱もしくは発疹チフスを疑っている。
								有り	うなづき	ProMED 9/24, 2003 (BBC News 9/24, 2003)	スーダンで小児の間に「うなづき病(Nodding disease)」と呼ばれる原因不明の疾患が流行しており、これまでに約300名の小児が罹患した。
								有り	ジフテリア	ProMED 9/27, 2003 (Times of India 9/17, 2003)	インドで、最近2週間にジフテリアに非常によく似た病態を呈する原因不明の疾患の患者6名が発生、そのうち1名が死亡した。
								有り	脳炎	ProMED 10/13, 2003 (Nwesday 10/12, 2003)	米国ニューヨーク市スタテンアイランド地区住民の4名が原因不明の脳炎で重体入院中。SARSは除外、WNV検査陰性で、今後とも検査等を実施する。
								有り	高熱	ProMED 12/4, 2003 (Tyumenskaya 12/1, 2003)	ロシア・ハンティマンシ自治管区において、住民80名が原因不明の感染症に罹患した。症状は高熱、咽頭痛、消耗性の咳嗽である。
								有り	ウイルス性肺炎(不明)	ProMED 12/6, 2003 (Infectious and Parasitological Diseases News 12/3, 2003)	ロシア・モスクワ大学の学生で、原因不明の疾患が流行。暫定的データによれば、流行の原因はインフルエンザの重症型による肺炎の可能性が高いようである。
								有り	ウイルス感染(不明)	ProMED 12/5, 2003 (Jornal do Tocantins 11/28, 2003)	ブラジルTocantins州のAraguacema市とPium市などで、デング熱に類似したウイルス性感染症と考えられる疾患による患者288例が報告された。
								有り	ウイルス性肺炎(不明)	ProMED 12/15, 2003 (EID Weekly Updates; Emerging and Reemerging Infectious Diseases, Region of Americas, Vol.1, No.23, 12/11, 2003)	2003年9月25日～11月28日、コロンビアで重症急性呼吸器疾患患者38名がコロンビア国立保健研究所に報告された。このうち、13名が死亡したが、患者のうち2名からインフルエンザA型ウイルス、2名からパラインフルエンザウイルス、1名からRSウイルスとパラインフルエンザ1型ウイルス、1名からRSウイルスとインフルエンザA型ウイルスが検出された。
2004/03/22	585	麒麟麦酒	エポエスチナルファ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓由来トリプシン	アメリカ合衆国	製造工程	無し			
2004/03/22	586	麒麟麦酒	エポエスチナルファ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	アメリカ合衆国	製造工程	無し			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要		
2004/03/22	587	麒麟麦酒	エポエスチンアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有り	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 8/7, 2003 (The Age 8/7, 2003)	ニュージーランドでvCJD感染のおそれがある症例が報告され、確認中である。		
										ProMED-mail 8/7, 2003 (ニュージーランド保健省記者会見 8/7, 2003)	ニュージーランドでvCJD感染のおそれがある症例が報告され、確認中である。		
										ProMED-mail 8/17, 2003 (New Zealand Herald 8/15, 2003)	ニュージーランドでvCJD感染のおそれがあった症例は、扁桃腺の試験が陰性であったことから、vCJDの診断を除外した。		
										ProMED-mail 12/23, 2003 (Washington Post 12/23, 2003)	米国ワシントン州で飼育されていたホルスタイン種ウシ1頭が米国で初めてBSEとして疑われた。		
										ProMED-mail 12/23, 2003 (USDA NEWS RELEASE 12/23, 2003)	米国ワシントン州で飼育されていた歩行困難なホルスタイン種ウシ1頭が、米国で初めてのBSEとして疑われた。		
2004/03/22	588	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	有効成分	有り	E型肝炎	THE LANCET 2003; vol.362, August 2, 371-3	日本の症例を通じて、シカ肉を生食することでE型肝炎が伝播する可能性を指摘。		
										Journal of Clinical Microbiology 2003; 41(8): 3602-8	韓国において、ブタ血清試料からブタHEV分離株を3株同定したこと、供血者の18%は抗ブタHEV抗体陽性であったことなどから、ヒトとブタの間に無症候性HEV感染が流行している可能性が示唆された。		
										Journal of General Virology 2003; vol.84: 2351-7	北海道で市販されているブタの肝臓の1.9%からHEV遺伝子の一部を検出。この遺伝子が、ブタ肝臓を摂取後HEVに感染した患者のウイルスとほぼ同等の塩基配列を呈したことから、HEVが十分加熱されていないブタ肝臓の摂取によりヒトに感染する可能性が示唆された。		
										Journal of Infectious Diseases 2003; 188(6): 944	日本で急性E型肝炎を発症した2名の患者はイノシシの肝臓を生で摂取していた。日本において地域的なHEV感染が潜在している一因と、こうした食習慣による可能性がある。		
										Hepatology Research 2003; 27: 169-73	東京及び近郊の居住者1,033人の血清検体を用いて HEV IgG抗体の保有率を検査したところ、肝臓病患者集団では15.4%、健康人で3.0%、幼児では0.4%で抗体が認められた。E型肝炎の汚染地域に渡航したHEV抗体陽性者はいないことから、感染ルートの解明が待たれる。		
										有り	C型肝炎	Transfusion 2003; 43(10): 1433-41	米国で1970年代に行われた研究の保管検体5,387本を用いて、輸血後HCV感染が成立するために必要な供血者HCV-RNAの最小量を検討したところ、現在のHCV-RNA検査は、個別審査を実施しても感染性を有する全ての血液を排除することはできず、血清学的検査は今後も継続されるべきとの結論を得た。
												Hepatology 2003; 38(4 suppl 1): 156A-818A, Abstracts of the 54th annual meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases	米国で血清中にHCV-RNAが検出されず、他に原因が特定できない長期の肝疾患患者57人の肝生検サンプルをRT-PCR法分析した結果、47人(70%)にHCV-RNAを認めた。この潜在性HCV患者の肝損傷の程度は、通常のHCV感染例より重症である。
									Transfusion 2003; 43(9s): S107-040G, Special Abstract Supplement 56th Annual	チンパンジーを用いて、ウィンドウ期にある血液でHCV感染が成立するために必要なウイルス量を検討した結果、個別NATで判定のボーダーラインとなる～1copy/20mlのウイルス量が必要であることが判明した。			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
								有り	ハンタウイルス感染	Journal of Clinical Microbiology 2003; 41(10): 4894-7	ドイツでヨーロッパに広く分布するハタネズミによって媒介されるハンタウイルス属ツラ種の感染により腎症候性出血熱と肺炎を併発した初めての症例の報告。
								有り	ウイルス性気道感染 (hMPV)	Pediatric Infectious Disease Journal 2003; 22: 923-4	オランダの研究者により分離されたhMPV (human Metapneumovirus) は5歳未満の児童の呼吸器に感染し、呼吸器疾患を引き起こす新型ウイルスであり、院内感染の原因となることが確認されている。
								有り	ロスリバーウイルス感染	ProMED 10/8, 2003 (Bunbury Mail 10/8, 2003)	ロスリバーウイルスは、ヒト蚊間の感染サイクルが成立する南オーストラリアに限定された感染症であり、その潜伏期間は2~21日である。
								有り	A型肝炎	ABC Newsletter 11/14, 2003	米国ペンシルバニア州で、A型肝炎による400人以上の集団感染が発生した。輸血による感染はまれであるが、北オハイオ赤十字血液センターは、発生源となったレストランで食事をしたヒトからの供血を12ヶ月間延期する感染防止措置を取った。
								有り	デング熱	British Medical Journal 2003; 327(7428): 1368	デング熱は周期的に流行する傾向がある。また、近年は発生地域も拡大する傾向がある。2004年にはデング熱の大流行が起こると予想する国は多い。
								有り	クロイツフェルト・ヤコブ病	EU Institutions press releases 12/18, 2003 ProMED 12/27, 2003 (Dr. S. Shafran, E. Wayne Johnson, Allen Drusys の投稿 12/26, 2003) Transfusion 2003; 43(12): 1687-94 Nature Medicine 2003; 9(12): 1442	英国保健省は、輸血を介してvCJDに感染する可能性がある患者が死亡したことを英国議会に報告した。 米国で、BSEに感染したウシの第1例が報告された。自ら歩行もできないこの感染牛の肉を、米国政府は食用としての使用を許可したことは理解しがたい。 輸血によるvCJD感染の可能性を確認するため、vCJDモデルのマウスと非vCJDモデルのGSS病のマウスから調整した血液成分を各々健康なマウスの脳内に接種した。その結果、両者とも、パフィーコート、血漿に同等の感染性を示した。 日本及びイタリアで、それぞれ新種と思われるBSEに感染したウシが発見された。日本のウシは非常に若く症状も現れていなかったが、イタリアのウシは脳内アミロイドの蓄積に異常なパターンが見られた。両国の感染牛のプリオンが同一か、あるいは新しい病原体であるかは不明である。
								有り	人畜共通感染症 (サル痘)	Pediatric Infectious Disease Journal 2003; 22(12): 1093-6	アフリカの一部に限局されていたサル痘ウイルス病が米国で発症した。感染源は、アフリカから輸入した小型のほ乳類とともに飼育されていたプレーリードッグであった。
2004/03/22	589	日本赤十字社	合成血	合成血	ヒト血液	日本	有効成分	有り	E型肝炎	THE LANCET 2003; vol.362, August2, 371-3 Journal of Clinical Microbiology 2003; 41(8): 3602-8 Journal of General Virology 2003; vol.84: 2351-7	日本の症例を通じて、シカ肉を生食することでE型肝炎が伝播する可能性を指摘。 韓国において、ブタ血清試料からブタHEV分離株を3株同定したこと、供血者の18%は抗ブタHEV抗体陽性であったことなどから、ヒトとブタの間に無症候性HEV感染が流行している可能性が示唆された。 北海道で市販されているブタの肝臓の1.9%からHEV遺伝子の一部を検出。この遺伝子が、ブタ肝臓を摂取後HEVに感染した患者のウイルスとほぼ同等の塩基配列を呈したことから、HEVが十分加熱されていないブタ肝臓の摂取によりヒトに感染する可能性が示唆された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
										Journal of Infectious Diseases 2003; 188(6): 944	日本で急性E型肝炎を発症した2名の患者はイノシシの肝臓を生で摂取していた。日本において地域的なHEV感染が潜在している一因は、こうした食習慣による可能性がある。
										Hepatology Research 2003; 27: 169-73	東京及び近郊の居住者1,033人の血清検体を用いて、HEV IgG抗体の保有率を検査したところ、肝臓病患者集団では15.4%、健康人で3.0%、幼児では0.4%で抗体が認められた。E型肝炎の汚染地域に渡航したHEV抗体陽性者はいないことから、感染ルートの解明が待たれる。
							有り	バベシア症		Journal of Clinical Microbiology 2003; 41(8): 3494-8	日本のイヌに寄生するイヌダニについてDNA塩基配列分析法で調査した結果、 <i>Babesia canis vogeli</i> DNAの部分的配列や <i>Babesia gibsoni</i> Asia-1DNA、さらには <i>Babesia odocoilei</i> と <i>Babesia divergens</i> の塩基配列に類似した新塩基配列が検出された。
										Transfusion 2003; 43(9s): S44-030H, Special Abstract Supplement 56th Annual Meeting	米国において、バベシア症の原因となる <i>B. Microti</i> 感染が疑われ、血清学的検査が陽転した供血者(54人)の選及調査を行った。これにより、調査前12ヶ月以内に当該供血者の血液から製造された輸血用血液製剤の受血者に <i>B. Microti</i> 感染の可能性が高いことが示唆された。
							有り	C型肝炎		Transfusion 2003; 43(10): 1433-41	米国で1970年代に行われた研究の保管検体5,387本を用いて、輸血後HCV感染が成立するために必要な供血者HCV-RNAの最小量を検討したところ、現在のHCV-RNA検査は、個別審査を実施しても感染性を有する全ての血液を排除することはできず、血清学的検査は今後も継続されるべきとの結論を得た。
										Hepatology 2003; 38(4 suppl 1): 156A-818A, Abstracts of the 54th annual meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases	米国で血清中にHCV-RNAが検出されず、他に原因が特定できない長期の肝疾患患者57人の肝生検サンプルをRT-PCR法分析した結果、47人(70%)にHCV-RNAを認めた。この潜在性HCV患者の肝損傷の程度は、通常のHCV感染例より重症である。
										Transfusion 2003; 43(9s): S107-040G, Special Abstract Supplement 56th Annual Meeting	チンパンジーを用いて、ウィンドウ期にある血液でHCV感染が成立するために必要なウイルス量を検討した結果、個別NATで判定のボーダーラインとなる~1copy/20mlのウイルス量が必要であることが判明した。
							有り	ハンタウイルス感染		Journal of Clinical Microbiology 2003; 41(10): 4894-7	ドイツでヨーロッパに広く分布するハタネズミによって媒介されるハンタウイルス属ツーラ種の感染により腎症候性出血熱と肺炎を併発した初めての症例の報告。
							有り	ウイルス性気道感染(hMPV)		Pediatric Infectious Disease Journal 2003; 22: 923-4	オランダの研究者により分離されたhMPV(human Metapneumovirus)は5歳未満の児童の呼吸器に感染し、呼吸器疾患を引き起こす新型ウイルスであり、院内感染の原因となることが確認されている。
							有り	細菌感染		AABB Association Bulletin #03-12, 2003, 10/1	米国血液銀行協会の血小板製剤ガイドランス。血小板製剤の細菌汚染は0.1~0.3%の頻度で発生する。この問題に対して採血時における初血除去や汚染製剤を同定し、使用を回避する等の対策が示された。
							有り	ロスリバーウイルス感染		ProMED 10/8, 2003 (Bunbury Mail 10/8, 2003)	ロスリバーウイルスは、ヒト蚊間の感染サイクルが成立する南オーストラリアに限定された感染症であり、その潜伏期間は2~21日である。
							有り	リーシュマニア症		AABB Association Bulletin #03-14, 2003, 10/10	BPACは全血について、リーシュマニア症の既往を永久供血停止に、イラクへの旅行者は1年間の供血停止にすることを勧告した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
								有り	レンサ球菌性敗血症	Transfusion 2003; 43(9s): S107-040G, Special Abstract Supplement 56th Annual Meeting	米国でB群レンサ球菌による輸血後敗血症が2例報告された。1例はフェレーシス血小板輸血後に死亡、使用製剤及び患者血液を培養した結果、B型レンサ球菌を検出した。他の1例は治癒したが、輸血に用いた血小板製剤5バッグ中、2バッグからB型レンサ球菌を認めた。
								有り	ヒトのエールリツヒア症	Transfusion 2003; 43(9s): SP8, Special Abstract Supplement 56th Annual Meeting	米国でヒト顆粒球性エールリツヒア症の病原体に対する抗体保有率が3~4%に達する州がある。冷蔵保存した血液中で18日生存する本病原体は輸血用血液にとって脅威となる可能性がある。
								有り	A型肝炎	ABC Newsletter 11/14, 2003	米国ペンシルバニア州で、A型肝炎による400人以上の集団感染が発生した。輸血による感染はまれであるが、北オハイオ赤十字血液センターは、発生源となったレストランで食事をしたヒトからの供血を12ヶ月間延期する感染防止措置を取った。
								有り	デング熱	British Medical Journal 2003; 327(7428): 1368	デング熱は周期的に流行する傾向がある。また、近年は発生地域も拡大する傾向がある。2004年にはデング熱の大流行が起こると予想する国は多い。
								有り	クロイツフェルト・ヤコブ病	EU Institutions press releases 12/18, 2003 ProMED 12/27, 2003 (Dr. S. Shafran, E. Wayne Johnson, Allen Drusys の投稿 12/26, 2003)	英国保健省は、輸血を介してvCJDに感染する可能性がある患者が死亡したことを英国議会に報告した。 米国で、BSEに感染したウシの第1例が報告された。自ら歩行もできないこの感染牛の肉を、米国政府は食用としての使用を許可したことは理解しがたい。
										Transfusion 2003; 43(12): 1687-94	輸血によるvCJD感染の可能性を確認するため、vCJDモデルのマウスと非vCJDモデルのGSS病のマウスから調整した血液成分を各々健康なマウスの脳内に接種した。その結果、両者とも、パフィーコート、血漿に同等の感染性を示した。
										Nature Medicine 2003; 9(12): 1442	日本及びイタリアで、それぞれ新種と思われるBSEに感染したウシが発見された。日本のウシは非常に若く症状も現れていなかったが、イタリアのウシは脳内アミロイドの蓄積に異常なパターンが見られた。両国の感染牛のプリオンが同一か、あるいは新しい病原体であるかは不明である。
								有り	人畜共通感染症(サル痘)	Pediatric Infectious Disease Journal 2003; 22(12): 1093-6	アフリカの一部に限局されていたサル痘ウイルス病が米国で発症した。感染源は、アフリカから輸入した小型のほ乳類とともに飼育されていたプレーリードッグであった。
								有り	アメリカトリパノソーマ症(シャーガス病)	Emerging Infectious Diseases 2003; 9(12): 1558-62	米国でアメリカトリパノソーマ症(シャーガス病)の検査で、通常行われている血清学的検査では特異的IgG抗体陰性であった80人中、12人がPCR法で陽性になった。
2004/03/23	590	ファイザー	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ腸	米国	有効成分	無し			
2004/03/23	591	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種兎炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兎炎症		有効成分	無し			
2004/03/23	592	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種兎炎症皮膚抽出液	カゼイン性ベプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無し			
2004/03/23	593	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種兎炎症皮膚抽出液	カゼイン性ベプトン	ブタ膀胱		製造工程	無し			
2004/03/23	594	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種兎炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵		製造工程	有り	インフルエンザ	WHO Weekly Epidemiological Record 2004; No.7, February 13: 65-76	WHOはタイ、ベトナムで発生した高病原性鳥インフルエンザのヒトへの感染23症例の概括とタイにおける高病原性鳥インフルエンザ症例5例の概要を報告した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
2004/03/23	595	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種 免疫炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ		製造工程	無し			
2004/03/22	596	北里研究所	1 乾燥弱毒生麻しんワクチン 2 乾燥弱毒生風しんワクチン 3 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 4 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	1、2、3 ニュージーランド、オーストラリア、 4、不明	1~4 製造工程	有り	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC MMWR, 1/9, 2004/52(53): 1280-5	米国農務省は、ワシントン州の食肉処理場で処理されたホルスタイン種ウシ1頭が、米国で初めてのBSEであると推定診断されたと発表した。
2004/03/22	597	北里研究所	1、2 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 3 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 4 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 5 ジフテリアトキソイド 6 ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	1、2、3米 国、4、5、6 不明	1~6 製造工程	有り	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC MMWR, 1/9, 2004/52(53): 1280-5	米国農務省は、ワシントン州の食肉処理場で処理されたホルスタイン種ウシ1頭が、米国で初めてのBSEであると推定診断されたと発表した。
2004/03/22	598	北里研究所	1 乾燥弱毒生麻しんワクチン 2 乾燥弱毒生風しんワクチン 3 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 4 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	トリブシン	ブタ臓臓	1、2、3米 国、カナダ、 4不明	1~4 製造工程	有り	インフルエンザ	The Veterinary Record 2003; 9/27: 408	1998年7月から現在まで台湾の各養豚場におけるインフルエンザ流行調査を実施している。最も検出率が高かったのはH1N1、H3N2であった。公衆衛生面から人畜共通感染症としてのインフルエンザのヒトへの流行が懸念されるため、今後さらなる調査が必要である。
2004/03/22	599	北里研究所	1、2 インフルエンザHAワクチン 3 インフルエンザワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	1、2日本、 3不明	1~3 製造工程	有り	インフルエンザ	ProMED 9/28, 2003 (Eurosurveillance Weekly, vol.7(39), 9/25, 2003) ProMED 12/24, 2003 (Reuters Health eLine 12/22, 2003) WHO HP 1/14, 2004 日本経済新聞2004年1月13日	2003年9月、デンマークにおいて、新型鳥型インフルエンザウイルスA型H5N7がアヒルで初めて確認された。アヒル全個体が処分された。 2003年12月、韓国で高病原性鳥インフルエンザA型(H5N1)が発生、ブロイラー、鶏卵等が処分された。韓国では、H5N1のヒトからヒトへの伝播は確認されていない。 2003年10月以来、ベトナムのハノイでは14人が重症の肺炎症状を呈し12人が死亡、そのうち3人が遺伝子解析の結果、鳥インフルエンザH5N1感染により死亡したことが判明した。 2003年12月28日から2004年1月13日にかけて山口県の採卵鶏農場において家畜伝染病に指定されている高病原性鳥インフルエンザの発生、6000羽が死亡した。国内では79年ぶりの発生で、DNA鑑定の結果、香港や韓国で流行したものと同一型だった。
2004/03/22	600	北里研究所	1 乾燥弱毒生麻しんワクチン 2 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 3 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	1、2日本、 米国、3不明	1~3 製造工程	有り	インフルエンザ	ProMED 9/28, 2003 (Eurosurveillance Weekly, vol.7(39), 9/25, 2003) ProMED 12/24, 2003 (Reuters Health eLine 12/22, 2003)	2003年9月、デンマークにおいて、新型鳥型インフルエンザウイルスA型H5N7がアヒルで初めて確認された。アヒル全個体が処分された。 2003年12月、韓国で高病原性鳥インフルエンザA型(H5N1)が発生、ブロイラー、鶏卵等が処分された。韓国では、H5N1のヒトからヒトへの伝播は確認されていない。



受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
										WHO HP 1/14, 2004	2003年10月以来、ベトナムのハノイでは14人が重症の肺炎症状を呈し12人が死亡、そのうち3人が遺伝子解析の結果、鳥インフルエンザH5N1感染により死亡したことが判明した。
										日本経済新聞2004年1月13日	2003年12月28日から2004年1月13日にかけて山口県の探卵鶏農場において家畜伝染病に指定されている高病原性鳥インフルエンザの発生、6000羽が死亡した。国内では79年ぶりの発生で、DNA鑑定の結果、香港や韓国で流行したものと同一型だった。
2004/03/22	601	北里研究所	1, 2, 3, 4 日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	1, 2日本、3, 4, 5不	1~5 製造工程	無し			
2004/03/22	602	北里研究所	1, 2 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 3 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 4 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 5 ジフテリアトキソイド 6 ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	1, 2, 3米 国、4, 5, 6 不明	1~6 製造工程	無し			
2004/03/22	603	北里研究所	1, 2 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 3 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 4 沈降精製百日せきワクチン 5 百日せきワクチン	ウマ脱繊維血	ウマ血液	1, 2ニュー ジーランド、 3, 4, 5不 明	1~5 製造工程	無し			
2004/03/22	604	北里研究所	1 乾燥破傷風抗毒素 2 乾燥まむし抗毒素 3 ワイル病治療血清 4 乾燥ジフテリア抗毒素	ウマ血漿	ウマ血液	不明	1~4 製造工程	無し			
2004/03/22	605	北里研究所	1 乾燥弱毒生風しんワクチン 2 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	1日本、2不明	1, 2 製造工程	無し			
2004/03/22	606	北里研究所	ワイル病治療血清	ウサギ血清	ウサギ血液	不明	製造工程	無し			
2004/03/22	607	北里研究所	1 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 2 ジフテリア破傷風混合トキソイド 3 乾燥破傷風抗毒素	ハートエキス	クジラ心臓	不明	1~3 製造工程	無し			
2004/03/22	608	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	不明	製造工程	有り	HIV感染、B型肝炎、エルシニア感染、肺炎球菌性敗血症	平成15年度第3回薬事分科会血液事業部会運営委員会資料	赤血球、血小板等の輸血を介して、HIV感染、HBV感染、エルシニア感染、肺炎球菌の感染による敗血症について、日本赤十字社から報告を受けたが、事実関係等については調査などを実施しているところである。
2004/03/22	609	北里研究所	乾燥まむし抗毒素	マムシ毒	マムシ	不明	製造工程	無し			
2004/03/24	610	ジェンサイム・ジャパン	アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無し			
2004/03/25	611	ベネシス	1, 2, 3, 4 人血清アルブミン 5 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 6 乾燥濃縮人血液凝固	人血清アルブミン	ヒト血液	①②⑤⑥日本、③④米国	1~4 有効成分、5, 6 添加物	有り	マラリア	ProMED-mail 8/4, 2003 (The Palm Beach Post 8/3, 2003)	米国フロリダ州で海外渡航歴のない2名のマラリア感染者が確認された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	感染症(PT)	出典	概要
										ProMED-mail 8/4, 2003 (The Post and Courier 7/29, 2003)	米国フロリダ州で海外渡航歴のない2名のマラリア感染者が確認された。
										CDC MMWR, 9/26, 2003/52(38): 908-11	米国フロリダ州で2003年7-8月で、7名のマラリア感染者が確認された。感染者はいずれも過去のマラリア感染歴もなく、最近に輸血、移植、薬物静脈注射の投与経験もなかった。6名は感染地域への渡航歴がなく、1名は2年前にコロンビアから移住した者だが、前居地はマラリア感染区域ではなかった。7名のマラリア原虫のDNAは一致した。
								有り	C型肝炎	Clinical Infectious Diseases 2003; 37(1), 33	イタリアでヘロイン常用者を調査したところ、非注射薬物常用者に比べ注射薬物常用者のHCV抗体陽性率は高かった。
								有り	C型肝炎、HIV 感染	Journal of Acquired Immune Deficiency Syndromes 2003; 33(3): p356-64	米国ニューヨーク市の麻薬常用者及び前歴者557人について、血清HCV抗体、HCV-RNA及びHCV遺伝子に関連する因子を評価した。
								有り	クロイツフェルト ・ヤコブ病	ProMED-mail 8/7, 2003 (The Age 8/7, 2003)	ニュージーランドでvCJD感染のおそれがある症例が報告され、確認中である。
										ニュージーランド保健省HP 8/15, 2003	ニュージーランドでvCJD感染のおそれがあった症例は、扁桃腺の試験が陰性であったことから、vCJDの診断を除外した。
										The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE 2003; 349(19): 1812-20	スイスで1996年～2002年にCJDで死亡した36人の患者の神経系以外の組織を調査したところ、患者の約1/3から脾臓や骨格筋にPrPscを検出した。罹患期間が長いほど、神経系以外にPrPscが存在すると考えられる。
										BLOOD TRANSFUSION INCIDENT INVOLVING vCJD, Department of Health (UK) 2003	英国で、輸血により感染したと考えられるvCJDの初の症例が確認されたが、供血者と受血者の因果関係は証明されていない。
								有り	ハンタウイルス 性肺炎	ProMED-mail 8/9, 2003 (Contra Costa Times 8/9, 2003)	米国カリフォルニア州で今年初めてのハンタウイルス肺炎候群(HPS)の患者が発生した。カリフォルニア州では1993年以降36例のHPSが発生しており、昨年には2名のHPSが発生した。
								有り	人畜共通感染症 (サル痘)	FDA HP/CDC/MEDIA RELATION/ August 7, 2003	米国CDCによると、2003年7月30日現在の米国におけるサルのサル痘は、調査中72例、検査確定37例である。
								有り	東部ウマ脳炎	ProMED-mail 8/2, 2003 (Baltimore Sun 7/30, 2003)	米国メリーランド州東海岸部で飼育されていたウマ2頭が東部ウマ脳炎に感染した。
								有り	ウエストナイル ウイルス感染	CDC MMWR, 8/15, 2003/52(32):769-72	2003年から、米国で輸血・臓器提供によるウエストナイルウイルス感染防止のため、供血血液に抗体検査に加えてNATスクリーニング検査が導入された。その結果、同年8月5日までに約100万人がスクリーニングされ、329人(約0.03%)がWNV-RNA陽性を示し、再度のNATでも163人(約0.015%)がWNV-RNA陽性だった。
										CDC MMWR, 8/22, 2003/52(33):796	2003年8月20日現在までの全米でのWNV感染の累計はヒト715人(うち死亡14人)、死んだ鳥3405羽、ウマ703頭、イヌ4匹、リス1匹、その他の動物5匹であった。
										Canadian Blood Services Customer Letter #2003-21 9/3, 2003	カナダ・サスカチュワン州ではWNV感染症が高率に見られたため、カナダ血液サービス(CBS)は2003年9月2日よりサスカチュワン州のすべての血液ドナーについて、WNV-RNAスクリーニングをミニプールNATから個別NATに変更した。